

卓 話

平成 17 年 2 月 22 日

『会員卓話』

大洞 長栄 会員

皆様、今日は。今期 2 人目の会員卓話のご指名を頂いています会計監査の大洞でございます。しばらくの間、おつきあいをお願いします。

私、昨年 10 月 22、23 日とある団体旅行でバス 2 台にて群馬県北部の紅葉真盛りの谷川岳に登り、近くの温泉地で一泊し、2 日目は新潟県湯沢町を北上し、中越地方の魚沼方面で昼食をとり、国道 17 号線や十日町市を通り、千曲川添いの国道 117 号線を経由し、長野市方面よりは高速道路にて、一路岐阜へとバスを進め午後 7 時 30 分ごろ帰岐いたしました。帰宅してからしばらくしてから、NHK テレビは新潟県中越地方各地の地震による被害の報道一色でした。地震が 5 時間も前に発生していたらあの地方で大変な目にあっていたなと思いながら、テレビの放映に見入っていました。本来はこの旅行、私どもは 10 月 21 日出発の計画でしたが、10 月 19 日の 23 号台風により、兵庫県、京都北部、岐阜県飛騨をはじめ各地に大水害をもたらしていましたので、私共 1 日順延となり、冷汗をかいた日程となったわけです。



昨年は台風日本列島上陸の当たり年で、日本中各地で風水害の連続で国内では中越地震が災害の決めつけとなりました。一方海外では、12月のスマトラ沖での地震で世界の災害歴史の一ページとなる大津波発生の大災害は記憶に新しいところでございます。

ここで私の頭脳の中に記憶されています過去 60 年間の災害を頭の中のページをひもときたいと思います。まず私が直接体験した震度 4 以上の地震から省みます。10 年前の平成 7 年 1 月 17 日午前 5 時頃発生の阪神淡路大地震で岐阜地方は震度 4 と報道され、ご案内の通で大災害の発生でしたがこのことは多くを語る必要はないと存じます。私、子どもの頃から多くの地震を体験していますが、岐阜地方での震度 4 以上という今から 50 年以上前の昭和 23 年 6 月下旬の福井地震で、午前、昼食前の発生でしたので大火となり、大災害となったと報道されていました。昭和 21 年 12 月末と、昭和 19 年 12 月末の南海東南海地震は震度 5 以上の地震でしたので、私の頭の中に残っております。岐阜新聞夕刊の左上部のあすの歴史の記事で初めてこれは知りましたが、日本国敗戦間近の昭和 20 年 1 月に千名以上の死者を出している三河地震が発生していたことを当時は報道もされていなかったことがわかりました。次に災害といえば東海地方ではなんといっても昭和 34 年 9 月 26 日の伊勢湾台風です。大災害として永久に語りつがれると思います。昭和 36 年 9 月 16 日だと記憶していますが、第二室戸台風と命名されたあの台風の風の強さは今以って心に残っております強風でした。

次に水害でございますが、岐阜県内では、昭和 51 年 9 月 12 日、長良川が安八町で決壊した 9.12 水害で我が家も長良川が堤防決壊なくとも床上 60 cm の災害を受けました。昭和 36 年 6 月の岐阜西濃地方の大水害も被害は甚大でした。災害は忘れた頃にまた来るといわれています。各種災害時の情報の早期発信をし、少しでも災害を少なくする減災に努めること。長良川、伊自良川をはじめとして堤防のさらに強固にしての水害に対する防災を国に大きく働きかけるべきと申し上げまして本日の卓話とします。